

令和6年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 7 年 5 月 28 日 作成

事務事業名	B&G海洋センター管理運営業務						事務事業No.	553 - 3			
1. 基本情報											
担当部	担当課	担当係		作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名				
市民協働部	スポーツ振興課	スポーツ施設係		主事補	中島 陸杜	課長	今林 直久				
施策体系	総合計画	政 策	5	教育・文化							
		施 策	5	スポーツの振興							
		基本事業	3	スポーツ施設の整備と活用							
	その他の計画	個別計画	なし								
根拠法令・条例・要綱等	なし										
事業開始年度	昭和58年	事業終了年度	未定		事務事業類型	施設整備事業					
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし		実施計画期間	未定					
2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）											
概要	B & G財団との契約により、穂波B & G海洋センター（体育館・プール・艇庫）の施設管理業務及び水辺の安全教室等【海レク体験（カヌー教室）、水辺の安全教室（着衣水泳教室）、海ゴミ事業（紙芝居による啓発活動）】を実施するもの。										
対象	働きかける 相手・もの	施設利用者									
手段	方法・働きかけ (活動指標)	体育館（穂波B & G海洋センター）・穂波市民プールは指定管理者、艇庫は直営で事業を実施する。									
意図	対象をどのように したいか (成果指標)	適正な施設管理に努め、施設利用者の増加を図る。									
3. 活動指標（決算成果説明書と連動）											
指標名	単位	指標の説明（算式等）			前年度実績	本年度実績	次年度見込				
水辺の安全教室等の実施	回	教室の開催数			4	4	4				
4. 成果指標（決算成果説明書と連動）											
指標	施設利用者数	単位	達成目標値	目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込				
		人	22000				22000	22000	22000		
説明	B&G海洋センター利用者数	方向性	達成目標年度	実績	16450	16249					
		維持	毎年度								
指標		単位	達成目標値	目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込				
説明		方向性	達成目標年度	実績							
指標		単位	達成目標値	目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込				
説明		方向性	達成目標年度	実績							
5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）											
経費区分	一般会計	経常経費			特別会計	-					
予算科目・事業	会計	1	一般会計	款	10	教育費	項	6 保健体育費			
	大	1	保健体育施設管理運営事業費	中	2	B&G海洋センター管理運営費	目	2 保健体育施設管理費			
	会計年	(R2以降)	前年度実績(千円)			本年度実績(千円)		増減理由(10%以上の場合)	次年度予算(千円)		
投入人員 (当該事務事業に 対して1年間に投 入した人員)	正職員	0.16	人	1,272	0.16	人	1,304	0.26	人	2,118	
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	会計年	1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0
	1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0	0.00	人	0	
	人件費計(A)		1,272			1,304		-	2,118		
事業費	直接事業費(B)		121			100			359		
	総事業費(A+B)		1,393			1,404			2,477		
直接事業費のうち の主な歳出内訳	負担金		20			20			20		
	旅費		95			80			339		
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)		0			0			0		
	国・県支出金		0			0			0		
	市債		0			0			0		
	一般財源		1,393			1,404			2,477		
	その他()										

6. 事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	高い	B&G財団との契約により、財団の活動理念に沿った、施設管理や必要な事業（水辺の安全教室等）を行う必要がある。水辺の安全教室による着衣水泳は水難事故の予防の一助となっている。
効率性評価	やや高い	体育館、プールは指定管理制度を導入している。艇庫は直営で管理を行っているが将来的に休止とする。
有効性評価	やや高い	水辺の安全教室等【海レク体験（カヌー教室）、水辺の安全教室（着衣水泳教室）、海ゴミ事業（紙芝居による啓発活動）】により、体験や啓発が実施できた。

7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分 一次評価	成果の方向性 現状維持	次年度以降に予算（コスト）を必要とせず、直ちに実施できる改善策	適正な施設管理に努め、施設利用者の増加を図る。
	コストの方向性	次年度以降に予算（コスト）増を必要とし、中長期的に実施する改善策	全国サミット出席のための旅費等およびB&G財団への負担金のみのため。
	現状維持		

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

水辺の安全教室等の会場について、多くの方が参加できるよう会場を健康の森屋外プールへ移し、カヌ一体験、着衣水泳やペットボトルなどを使い自分の身を守る教室、紙芝居による啓発活動を行った。

8. 今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

成果	目標値には達成しなかったが、子どもたちに水難事故等についての啓発を実施できた。
課題	各施設とも老朽化が激しいことから、施設の廃止や、他の施設との統合を含め、今後の施設のあり方を検討する必要がある。

9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性 現状維持	適正な施設管理に努め、施設利用者の増加を図る。
コスト投入の方向性 現状維持	全国サミット出席のための旅費等およびB&G財団への負担金のみのため。

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★

コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	教室の周知方法を見直し、参加者の増加を図る。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	どの施設も老朽化が激しいため、今後の在り方を検討する。

評価変更 理由	成果の方向性 廃止	相手方に在り方を左右される側面が大きいため、一定の期間がかかると思慮するが、契約上の法的拘束力の確認を行ったうえで、規模を縮小しながら、施設の廃止に向けた対応を行っていく
	コスト投入の方向性 縮小	規模の縮小及び廃止にむけた方向性のため縮小